

事務事業名	骨粗しょう症検診事業		所属部局	保健福祉部	単位番号	5197					
	<input type="checkbox"/> 実施計画事業		所属課室	健康増進課	課長名	深澤 秀					
			所属担当	健康づくり担当	担当者名	清水美佐子					
基本政策	基本計画	IV 快適で心のかよいあう都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目	
政策	18	健康づくりの推進	事業区分	01	一般	04	01	04	020	07	
施策	31	保健・医療の推進		<input checked="" type="checkbox"/> 国の制度による義務的事業	<input type="checkbox"/> 施設等維持管理事業						
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 H15 年度)			法令根拠	健康増進法						
	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( ~ 年度)										
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載			事業費の主な内訳 (26年度 決算見込)							
	早期に骨量減少者を発見し骨粗鬆症を予防することを目的に、集団健診会場(年間42会場)にて30~68歳(隔年)の女性と、人間ドック受診者で節目年齢(35~70歳の5歳刻み年齢)の女性を対象に骨密度検査を実施し、骨密度の低下がみられる者に対しては保健指導を行う。			項目(細節)	金額(千円)	項目(細節)	金額(千円)				
				その他委託料	1,742						
						計	1,742				

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と目標

① 活動	26年度活動内容	総合検診8~11月に42会場(午前)、人間ドック受診者の節目年齢(35~70歳の5歳刻み)の方に補助を行う。
	27年度活動予定	総合検診8~11月に42会場(午前)、人間ドック受診者の節目年齢(35~70歳の5歳刻み)の方に補助を行う。
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	30歳から68歳までの偶数年齢の女性 35歳、45歳、55歳、65歳、70歳の女性	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)	骨量減少を早期に発見し、その予防もしくは適切な治療ができる	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	介護予防(骨折・寝たきり予防)	

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	ア:骨粗鬆症検診受診者数(集団検診)	人
	イ:骨粗鬆症検診受診者数(人間ドック)	人
	ウ:精密検査者数(集団検診にて)	人
⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	ア:30~68歳までの偶数年齢の女性	人
	イ:節目年齢の女性(35・40・45・50・55・60・65・70)	人
⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	ア:骨粗鬆症検診受診率	%
	イ:精密検査受診率	%
⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	ア:要介護意見書が筋骨格による人数	人
	イ:骨折に関する医療費[5月国保データ]	円

年間トータルコスト		単位	24年度 (決算・実績)	25年度 (決算・実績)	26年度 (決算見込・実績)	27年度 (予算・目標)	28年度 (計画・目標)	29年度 (計画・目標)	最終年度 (トータルコスト・目標)
事業費	財源内訳	千円							
	国庫支出金	千円							
	県支出金	千円	367	32	365	303	303	303	
	地方債	千円							
	その他一般財源	千円	1,377	1,649	1,377	1,655	1,655	1,655	
	事業費計(A)	千円	1,744	1,681	1,742	1,958	1,958	1,958	0
人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2	2	
	延べ業務時間	時間	168	168	168	168	168	168	
	人件費計(B)	千円	765	765	765	765	765	765	0
	(A)+(B)	千円	2,509	2,446	2,507	2,723	2,723	2,723	0
活動指標	ア	人	1,390.0	1,309.0	1,300.0	1,300.0	1,300.0	1,300.0	
	イ	人	244.0	253.0	221.0	221.0	221.0	221.0	
	ウ	人	101.0	109.0	102.0	102.0	102.0	102.0	
対象指標	ア	人	9,577.0	9,737.0	9,512.0	9,512.0	9,512.0	9,512.0	
	イ	人	4,096.0	3,911.0	4,271.0	4,271.0	4,271.0	4,271.0	
	ウ								
成果指標	ア	%	17.4	16.0	16.6	16.6	16.6	16.6	
	イ	%	60.4	45.0	60.4	60.4	60.4	60.4	
	ウ								
上位成果指標	ア	人			94.0	94.0	94.0	94.0	
	イ	円	926,150.0	497,886.0	497,886.0	497,886.0	497,886.0	497,886.0	

(3) この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか?	合併前より老人保健法に基づき実施されてきた経過あり、合併時の平成15年度以降も引き続き継続されてきた。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか? また、今後の予測は?	高齢期の寝たきりの原因3位が骨粗鬆症による骨折であることは5年前と同様であり、高齢者人口の推移は今後増加傾向にあり介護予防は社会全体の大きな課題となっている。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか?	集団検診の対象者が68歳までとなっているが、年配対象外の方で希望する方がいる。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は?	<input checked="" type="checkbox"/> 取り組みしている ⇒【内容!】 <input type="checkbox"/> 取り組みしていない ⇒【理由!】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	市民の利便性を考え基本健診やがん検診と同時実施をしている。
③ H 26年度に実施した改革改善の内容	寝たきり防止など骨折の危険性など周知してきた。わかりやすい検診案内に取り組んだ。

事務事業名	骨粗しょう症検診事業	所属部	保健福祉部	所属課	健康増進課
-------	------------	-----	-------	-----	-------

## 2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由↓】 受診機会を設けることで、骨量減少の早期発見・治療の機会となり、適切な治療・指導を受けることで骨粗鬆症に伴う骨折の危険性を低下させ寝たきり等の介護予防に寄与することができるので、施策に結びついている。
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPO、市民協働に移行することは可能か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由↓】 市民の健康管理であり、健康増進法においても実施主体を市町村としているので、公共関与は妥当である。 事務事業の全部もしくは一部を外部に移行することが可能である。 <input type="checkbox"/> 民間・NPO <input type="checkbox"/> 市民協働
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由↓】 骨粗しょう症検診は予防であるため、70歳以降の対象者は、その目的からすると妥当でないため、継続で良いと判断している。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 今後、工夫や努力をする事で、事務事業の目的に向けて現状よりも成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	<input type="checkbox"/> かなり向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> ある程度向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由↓】 今後関心を持てるような周知方法を考える
	⑤ 類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	<input type="checkbox"/> 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入！) <input type="checkbox"/> 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input type="checkbox"/> 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 <input checked="" type="checkbox"/> 類似事務事業がない
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	<input type="checkbox"/> 影響なし <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 市民が骨粗鬆症検診を受ける機会を失い、早期発見・治療、予防の機会を失うため、影響あり。 <input type="checkbox"/> 休止・廃止ができる <input checked="" type="checkbox"/> 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 市民が骨粗鬆症検診を受ける機会を失い、早期発見・治療、予防の機会を失うため、休止・廃止できない。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由↓】 受診者数が安定しているため、今後のコスト削減はない。
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由↓】 外部委託事業であり、契約等の事務時間は最低限かかってしまう。また、集団検診にて他検診と同時実施であり、本検診のために特別人件費を費やしていないため削減の余地なし。
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由↓】 対象年齢の市民であり希望すれば誰でも受診できる点では公平である。

## 3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	女性で高齢の方に多くみられる。受診率は伸び悩んでいる今後対応していきたい。

## 4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可	(3) 改革・改善による方向性																					
<input type="checkbox"/> 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) <input type="checkbox"/> 事業統合・連携(有効性⑤の結果) <input type="checkbox"/> 公平性改善(公平性⑨の結果) <input type="checkbox"/> 休止(目的妥当性①、②、③の結果) <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上(有効性④の結果) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(全評価項目で適切) <input type="checkbox"/> 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) <input type="checkbox"/> コスト削減(効率性⑦、⑧の結果) <input type="checkbox"/> 終了	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト水準</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果水準</th> <th>向上</th> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> </table> <p>※ 廃止・休止の場合は記入不要</p>			コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	維持	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	低下	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
				コスト水準																		
		削減	維持	増加																		
成果水準	向上	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																		
	維持	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																		
	低下	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																		
(2) 改革改善案について 現状維持だが、受診者の固定化が考えられるため、効果的な受診方法を検討していく。																						
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策 受診年齢が周知されてきて、高齢者の受診希望者の声が聞かれなくなった。予防という観点からすると妥当と考える。	(5) 事務事業優先度評価結果 平成26年度																					
	成果優先度評価結果 ⑤																					
	コスト削減優先度評価結果 ⑨																					